



平成25年度 「体験型海外教育実地研究」 参加者による開発教材集

平成 26 年 2 月

広島大学大学院教育学研究科
広島大学グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト研究センター

目 次

1. 幼稚園	異文化理解	A Wish in TANABATA 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修	常安 智也 ……	1
2. 第2学年	音楽科	Let's sing WARABEUTA together ! 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修	明道 春奈 ……	7
3. 第2学年	異文化理解	Let's make a decoration of the Halloween with origami ! 教育学研究科科学文化教育学専攻社会認識教育学専修	若原 崇史 ……	13
4. 第3学年	異文化理解	Let's play the Japanese MENKO game 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修	坂本 亮 ……	19
5. 第4学年	異文化理解	Let's hold "Yuru-chara" contest in Greenville ! 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修	天野 航平 ……	25
6. 第4学年	異文化理解	Let's study kanji ! 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修	吉川 修史 ……	31
7. 第4学年	異文化理解	Names of Traditional Colors ~My color, Our colors 教育学研究科学習科学専攻学習開発専修	酒井 麻未 ……	37
8. 第5学年	異文化理解	Kendo 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修	池田 大徳 ……	43
9. 第5学年	異文化理解	Let's study from Japanese sweets ! 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修	河合 彩華 ……	49
10. 第5学年	異文化理解	Original Box Lunch 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修	永杉 茂仁 ……	55
11. 第6学年	異文化理解	What is "MOTTAINAI" ? 教育学研究科科学文化教育学専攻社会認識教育学専修	加納 大地 ……	61
12. 第6学年	異文化理解	Your familiar thing changes into Japanese Monster !? 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修	黒川 麻実 ……	67
13. 第8学年	異文化理解	Put your heart into the character! ~SHODO spirits~ 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修	岡田 光未 ……	73
14. 第8学年	異文化理解	Think Global, Act Local 教育学研究科学習科学専攻学習開発専修	藤井 瞳 ……	79
15. 第8学年	異文化理解	Let's make your original HANKO 教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修	横山 愛 ……	85

※教科等名は、参加者（授業者）側から付したものであり、授業を実施した当該校にとっては教育課程外の投げ入れ授業として位置づけられるものである。

体験型海外教育実地研究 幼稚園 異文化理解

「A Wish in TANABATA」

教育学研究科 学習科学専攻 カリキュラム開発専修 常 安 智 也

1 はじめに

体験型海外実地研究は私の人生の中で初めて海外に行く機会となった。兼ねてより、日本以外の国に訪れてみたいという気持ちは強かった。まして海外の教育現場を訪れることができるということはなかなかできることではない機会だと考えた。またこの経験は、将来小学校教師になった際に必ずいい経験になるはずである。そして、今私の持つ教育的な価値観を広げ、また見つめなおす良い機会になることを確信して、本実地研究の参加を決めた。

2 実地研究の日程と概要

月日	曜	交通等	訪問地・用務等	宿泊地
4/24	水	渡航までの日程, パスポート, ESTA, 授業研究テーマ事例, 部屋割り		
5/15	水	授業研究テーマ案の交流・テーマの設定		
6/6	木	学習指導案の検討		
6/11	火	学習指導案の検討		
6/24	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/1	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/6	土	第9回学校間交流国際フォーラム		
7/7	日	ワークショップ: 学習指導案および教材・教具の検討		
7/22	月	保険説明 (学習指導案の検討, 指導案の提出について)		
7/23	火	保険説明 (学習指導案の検討, 指導案の提出について)		
8/26	月	準備状況確認, 報告書・教材集・発表会について, 渡航準備・関係書類提出		
9/9	月	最終事前打ち合わせ (準備状況, 準備物・集合時刻等の確認)		
9/14	土	広島ー成田 0755-0935 (NH-3236) 成田ーワシントン ダラス 1105-1040 (NH-2) ワシントン ダラスーローリー 1220-1329 (UA-4880) 空港ー(ウォーレン先生・ECU バス)→City Hotel & Bistro		アメリカ・ノースカロライナ州 City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL(877)2712616 Greenville
9/15	日	(ウォーレン先生・バス)	ミーティング, ホテルにて教材作り 各学校の先生方と事前打ち合わせ レセプションパーティ	Greenville 同上
9/16	月	City Hotel →Wahl-Coates E.S へ (ウォーレン先生・バス)	学校訪問 (Wahl-Coates E.S) 校内見学 授業見学 担任の先生と授業についての打ち合わせ	Greenville 同上

9/17	火	City Hotel →Wahl-Coates E.S (ウォーレン先 生・バス)	学校訪問 (Wahl-Coates E.S) 授業実践 授業観察 授業見学 校内見学	Greenville 同上
9/18	水	City Hotel → ECU (ウォーレン先 生・ECU バス) ECU → ローリー (ECU バス)	午前 ECU の講義に参加 午後 ローリーへ移動 ノースカロライナ州議事堂と自然 史博物館見学する。	ノースカロライナ 州 Clarion Hotel State Capital 320 Hillsborough Street Raleigh, NC 27603 TEL(919)8320501 Raleigh
9/19	木	徒歩で, Exploris M.S.へ	学校訪問(Exploris M.S.) 午後 ローリー市内見学 子ども博物館, 歴史博物館を見学す る。	Raleigh (同上)
9/20	金	ローリーワシン トン ダラス 1021-1134 (UA-4887) (空港ーホテル間 はタクシー)	ワシントンへ移動 アメリカ文化体験	Washington Plaza 10 Thomas Circle, Northwest, Washington,DC 20005-4176 TEL (202)8421300 Washington, DC
9/21	土	徒歩	アメリカ文化体験・Book Fair 宇宙航空博物館, 美術館, ホロコー スト記念館, リンカーンメモリアル を見学する。	Washington DC(同 上)
9/22 9/23	日 月	ワシントンダラスー成田 1220-1525 (NH-1) 成田ー広島 1740-1915 (NH-3237)		

3 実地研究授業

3.1 単元名 幼稚園 異文化理解「A wish in TANABATA」

3.2 事前準備

① 単元設定の理由

日本の子どもたちの願い, そしてアメリカの子どもたちの願いを交流したいということが私の目指す授業であった。交流の中で, 両者を比較して同じところ違うところに目を向け, それぞれが大切にしている思いを尊重しあい, その願いの良さや優しさに気付くことができるようにしたいと考えた。しかし, ただ単純に願いはなんですか?と聞いて, 交流するのでは授業として魅力がない。そこで, 日本で願いを書く行事の一つである七夕をアメリカの子ども

たちに知ってもらい短冊に願いを書くことを体験しつつ、先に述べたお互いの国の願いの良さについて気付いてもらえるようにした。

② 準備したこと

授業で用いたものは、Power point と短冊・笹であった。日本の子どもたちが書いた短冊の紹介を Power point を用いて説明した。この短冊は、私が 1 年以上学校支援ボランティアで訪問している、東広島市立の小学校の子どもが書いたものである。子どもたちが短冊に書いた願いごとをいくつか拝借し、英訳したものを準備した。その小学生たちが短冊に書いた願い事は 300 枚を超えており、その中で、自分の夢を書いているもの、家族の幸せを願うものを取り上げた。短冊は折り紙で作り、こよりは和紙で作った。笹については、ウォーレン先生が家庭から持ってきてくださったものを使わせていただいた。こちらは、広島に 7 月にウォーレン先生がいらっしゃったときをお願いすることができた。

3.3 学習指導案

1. Lesson Title : A wish in TANABATA
2. Lesson Author : Tomoya Tsuneyasu
3. Date : September 17th, 2013
4. Grade levels : Kindergartener
5. Subject : Culture
6. Description : In this class, students will learn about "TANABATA". Students will write their wishes on a strip of paper. Finally, students read wishes written by Japanese children. And students notice the similarities and differences.
7. Objectives : As the result of this activity, students will be able to
 - (1)Get to know about TANABATA which is a festival in Japan.
 - (2)Get to know the purpose of TANABATA and each student writes a wish on a strip of paper.
 - (3)Notice the similarities and differences.



8. Procedure

Activity	Teacher's activity	Materials
1. Students look at the scene where Japanese children putting strips of paper to bamboo grass.	1. Teacher presents a photograph and tell students what they're doing.	TANABATA's pictures.
2. Students listen to the explanation of TANABATA.	2. "TANABATA is a day the prince "Altair" and the princess "Vega" can meet once a year. People write their wishes on a strip of paper and hang it to bamboo grass, and Altair and Vega will make their wishes come true on July 7 th ". Teacher explains it, using an illustration.	The illustration.

3. Students write their wishes on a strip of paper.	3. Teacher helps children who have not written their wishes yet.	
4. Some students show the strip of paper in front of the class.	4. Teacher praises students' wishes regardless of the contents.	
5. Students stick the strip of paper with bamboo.	5. Teacher tells students that "Let's put the paper on the bamboo." If some students hesitate to do it, they don't have to.	The bamboo.
6. Students read the wish written by Japanese children.	6. Teacher show Japanese student's wishes and translates into English.	Strip of paper written by Japanese student.
7. Students notice the similarities and differences.	7. Teacher tells students that Japanese children and American children have some similar and different wishes. Finally, teacher tells them "You have fantastic wishes. Japanese children have them too. I hope all of your wishes will come true."	

3.4 授業の実際

- (1)導入において、「日本から来ました。日本はどこか知っていますか？」と質問した。多くの子どもは手をあげて、地図を指さしてくれた。また、「日本には、たくさんの伝統・文化があります。寿司や相撲や七夕です。」という七夕だけ知っているという子どもが多かった。日本についてある程度の関心を持ってくれており、そこから七夕というのは何なのだろうと興味を引き付けることができた。
- (2)七夕にまつわる織姫と彦星の話をする、子どもたちは真剣にスライドを見ていた。七夕でなぜ願いが叶うのかその意味を伝えた。
- (3)短冊に願いを書くとなると子どもたちはすぐに書き始めた。文字でも絵でもいいというと、子どもたちはほとんど絵で願い事を描いていた。
- (4)自分たちが描いた願いについて、クラスで共有した。子どもたちは自分からどんどん夢を発表した。兵士になりたい、医者になりたい、子犬が欲しい、スポンジボブがほしい、滑り台で遊びたい、ブランコで遊びたい、人形が欲しい、などの夢を語ってくれた。
- (5)日本の子どもたちの願いを伝えるために、スライドで子どもたちの願いを見せた。
- (6)夢で似ているところ、違うところを尋ねた。子どもたちは「私も日本の子どもの気持ちすご



くわかる。病気のおばあちゃんがいたら私も早く治ってほしいと思う。」と述べた子どもがいた。

(7)最後に学習のまとめとして、短冊にこよりを通し、テープで笹につけさせた。マクスウェル先生と、アダムス先生が配るのを手伝ってくださり、完成させることができた。

3.5 考察

アメリカの子どもと日本の子どもの願いの共有からお互いの願いの良さを認めるということを目指していたが、授業を終えて子どもたちに与えるアプローチの仕方の課題と私の英語の語彙力の少なさから子どもの意見を授業に充分に取り入れられなかったという課題があった。

子どもたちに与えるアプローチの仕方だが、七夕の紙芝居をもとにしたイラスト付きの物語を見せ、興味を持たせることと、実際に短冊に願いを書き、笹に吊るすというところまで児童が主体的に活動を行っていくような工夫をした点はよかったと思う。しかし、日本の子どもたちの願いについて、アメリカの子どもたちが理解できていたのかという反省がある。日本の子どもたちの夢をなぜ私が提示したのかという意図について子どもたちはわかっていなかったように思う。子どもたちの気持ちになれば、短冊を早く竹に結び付けたいという意図があったはずだが、まず教師の意図を子どもに伝えるべきであった。また子どもたちに自分たちの夢と日本の子どもたちの夢を比較するとき、何が同じなのか、違うのか視点を与えていなかった点に課題がある。例えば、なりたい職業に違いはありましたか？や自分だったらそうは思いますか？といった質問をすればよかったと思う。

そして、私は授業において、子どもたちの意見を授業に充分に取り入れることがあまりできなかった点で悔いが残る。英語で子どもたちが発表したことについて、私が子どもたちの夢を褒め、それに対してこのように思うよと、きちんと子どもの夢を評価することができればよかった。また、日本の子どもとアメリカの子どもたちの夢の同じところと違うところについても、どんどん子どもたちで、意見交流を通し盛り上がるように進めることができたらしめともよかったと思った。それも私に英語の語彙力がないからであり、子どもの意見を理解できずまた広げることができなかったためであると反省した。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

幼稚園児を対象とした英語の授業を作るなかで工夫をするところがたいへんあった。いかに、日本の七夕に興味を持ってもらうか、どのような英語を用いるか、そして活動の流れ、教材の見せ方など、日本語で授業を作るよりも何倍もの時間をかけて吟味した。授業を創造していく中で、授業計画は簡潔明瞭に、教材はわかりやすく発達段階に適したものなどを作ることの大切さを痛感することができた。

そしてこの実地研究全体を通し、学校観および、授業観が大きく変わったと思う。学校は一番に楽しい場所であるべきだと思った。子どもが興味関心を持つために ICT を用いた授業を行うことなど様々である。教師は子供が学校に行きたいと意欲がわくような学級経営および授業計画を行うべきだと考えた。掲示物はみな、色とりどりで、日本の小学校にあるものとは違っていた。

またこれは、大学の講義でお世話になった元数学教師の先生から伺った名言であるが、「平凡な教師は言って聞かせる。よい教師は説明する。優秀な教師はやってみせる。最高の教師は子どもの心に火をつける。」というものである。これは私が教師になっても大切にしたいと思った。私が最も一生懸命になるのではなく、子どもが一番一生懸命になる授業を構成するようにしたいと思うようになった。



4.2 自分自身についての変容

最も私が今回の実地研究で変容したのはコミュニケーション能力だと思う。英語で授業することは、初めての経験であった。そして、授業以外にも先生や ECU の学生と交流する機会がたくさんあった。もともと英語は得意ではなかったが、自ら進んで交流しようという思いでどんどんいろんなことを話した。それでも、聞き取れないこと、伝えきれないことがたくさんあった。しかし、英語での質問や、会話は中学英語の範囲内であったが、体験学習を終えるころには、自分でも思えるほど英語の力が向上した。とくに、授業で幼稚園児にどうやって授業を行うかと英語を何度も考え直し、何度も模擬授業を友人とした。ほめ言葉やリアクションをどのようにするかをたいへん考慮した。そのためもあって、自己表現をする力はたいへん身に着いたと思っている。ときにはジェスチャーも織り交ぜながら、表情を豊かにし、言葉だけによらないコミュニケーションというものができるようになった。

4.3 グローバルマインドに関する変容

現地の先生方とお話するとき、日本の人は英語を話せるのに「I can't speak English.」と言うといっていた。「私だって、コンニチハとアリガトウを言えるから、日本語を話せる。」と少しでも話せるのなら話せるというあちらの文化の違いを知った。私たちは、遠慮、また過信しないということのつもりであるだろうが、自分に自信をもって主張するアメリカの文化は日本とは別にまたいい文化だと思った。異なる習慣や価値観の交流の機会が国際化が進む社会の中でますます増えるだろう。その時に、相手が本当に考えていることを知るためには相手の文化や表現の違いなどを考えておかなければならないと感じた。そして、私が持っている価値観は閉じた狭い社会でのものだということであるから、もっと世界を見て様々な価値観に触れてみたいと思った。

5 おわりに

このような学びが多い研修となったのは、4 月から何度も指導案に関するご指導をくださった諸先生方、お忙しい中來日しアメリカ現地では様々なご配慮を頂いた現地の諸先生方のお力添えがあったからである。特に、ECU のウォーレン先生には、私の授業のために笹までわざわざお持ちくださり、グリーンビル滞在中に感謝しきれないほどのサポートをしていただいた。本体験型海外教育実地研究においてお世話になった諸先生方に、心より感謝申し上げます。